

佐々町立佐々中学校 学校だより(HP)

「ときめき」 第 27 号 令和4年3月 10 日(木) 文責 校長 井上博之

○ 学校評価アンケートの結果と今後の取組について（その2）

第 26 号の生徒アンケートに続き、今回は教職員の学校評価アンケートの結果と今後の学校改善についてお知らせいたします。

※HP 用では結果一覧は掲載しておりません（学校だよりをご覧ください）

- ① 全項目の平均値から全体的な回答状況を見ると、前後期ともに 3.3
- ② 特に評価が高い項目（3.8 以上）は、No.9, 29
- ③ 特に評価が低い項目（3.2 以下）は、No.8, 10, 13, 14, 19, 23, 24, 28, 31, 32, 33, 35, 37, 38
- ④ 前・後期での変化（差）は、ほぼ 0.1～0.2 で、差が最も大きかった項目は、No.22 (+0.4)

- ① 全項目の平均値から全体的な回答状況を見ると、肯定的な回答＝「よくあてはまる」または、「だいたいあてはまる」と回答した教師の割合は前期、後期ともに全体の約 92% となりました。（生徒とほぼ同じ値）

- ② 特に評価が高い項目（3.8 以上）は、No.9, 29

No.9「授業終始の時間を守る」については、生徒の「2分前着席」とも関連する内容で、授業時間を守ることで教室移動も混乱なくスムーズにできていると判断できます。

No.29「職務に専念」を始め、これ以外の教育目標に関する項目、教科・道徳・学活・授業に関する項目について全体的に評価が高く、日頃の先生方の真面目で真摯な取り組み方を見ても同じ印象があり、数値にもよく表れていると思われます。

- ③ 特に評価が低い項目（3.2 以下）は、No.8, 10, 13, 14, 19, 23, 24, 28, 31, 32, 33, 35, 37, 38

No.8「道徳性を高める指導」については、特に経験年数が少ない先生方の評価が低く、学校全体での『特別の教科道徳』の研究実践が不足していたと反省しています。次年度は計画的な職員研修、授業研究が必要だと考えています。合せて、No.10「積極的な研修」については、今年度の校内研究のテーマを GIGA スクール構想の理解とタブレット端末（一人1台 PC）の効果的な活用としましたが、これ以外にも新しい評価の研修や特別支援教育、学力向上、その他必要な研修内容が多く、年間を通して計画的に進められなかった反省がありました。現在、次年度に向けて研究内容の検討と必要な校内研修の精選、教育課程への位置づけを協議しながら行っています。

No.14「開発的生徒指導」No.19「生徒が決まりを守る」については、本校の大きな課題の1つであり、次年度は、学校教育目標の中に「人権教育」と「助け合い、仲間づくり=ピア・サポート」の実践を柱にした学校経営を考えています。総合的な学習の時間、平和・人権教育、生徒会活動、校内研修の関連を考えながらそのための教育課程を作成しているところです。

No.23「職員会議時の事前検討」No.24「議題について共通理解」は限られた時間や場所、人で、どのように必要な協議を行い、共通理解を図っていくのか課題がありますが、1学

期の反省を元に、PCでの連絡事項のペーパーレス化、毎週の職朝・終礼・緊急連絡等の方法の改善等を行い、時間短縮や効率化を進めました。少しずつ工夫を加えたためか、評価が少し向上しています。これからも創意工夫を継続しながら改善していきたいと考えています。

No.28「部活動で個に応じた指導」については、部活動停止期間が長引いていること、No.32, 33, 35, 38は、感染対策により授業参観や学年PTAが相次いで中止となった影響が大きいと考えられます。

No.31「職場の雰囲気」については職員で意識の差が大きい結果となりました。前述の「助け合い、仲間づくり=ピア・サポート」の考え方と実践については、学校全体に浸透し、定着できてくれば職員間のつながり、地域のつながりに広がるものと考えています。

④ 前・後期での差は、ほぼ0.1~0.2で、差が最も大きかった項目は、No.22 (+0.4)

No.22「分掌担当以外の職員への連絡・調整」学校全体でも前述のNo.23, 24のとおり工夫したことと、個々の職員同士の意識向上や工夫が進んだ結果ではないかと考えています。

また、No.11, 12「行事の計画的な企画」「運営」に関する項目が向上しており、これも職員の連携・協力の結果だと推察されます。

※ 学校だよりNo.28 保護者アンケートの結果に続く